

ニュース

# 真相究明

長生園不明金事件の真相を究明する会  
 2022年6月12日(日)発行・第42号  
 〒622-0015 南丹市園部町木崎町上ヲサ 29-3  
 船井地労協内 Tel 0771-62-1611  
 事務局直通携帯電話(山岡) 090-1132-8823  
 事務局 eメール chouseienhumeikin@gmail.com

## ‘無実の人びとを救おう。5.20 全国いっせい行動を実施

救援会口丹支部と「長生園不明金事件の真相を究明する会」は5月20日早朝、JR園部駅前でのぼり・宣伝ボードを立てて“無実の人を救おう全国いっせい宣伝行動”を取り組みました。

この日の行動には、長生園事件当事者の西岡廣子さんを先頭に5人が参加し“えん罪で死刑の家族を助けて”のピラと長生園新理事長への手紙を載せた「訴えます」シリーズピラ第10弾をセットして配りました。写真下は当日の宣伝行動に参加された皆さんです。



宣伝の途中、元長生園職員の男性が西岡さんに、理事長交代劇の様子や幹部職員の一部が辞めさせられたことを伝えるなど貴重な情報が寄せられました。

コロナ禍の影響が通勤・通学者は多くなかったが、準備した200枚のピラを全部配布し終了しました。

## 「真相究明する会」は訴えますシリーズピラ第10弾(2022.5発行)完成!

今年も会員さんの協力を得て「真相を究明する会」は訴えますシリーズピラ第10弾が完成しました。例年通りA4サイズ両面カラー印刷で1万枚。南丹市園部町の「京都新聞」には5月23日に、口丹波全域の「しんぶん赤旗」には5月22日に折り込みました。労組・団体の機関紙にも折り込みを依頼しています。

今年のピラでは、西岡廣子さんが自宅待機命令を受けた翌日「このままでは犯人にされてしまう」と思った西岡夫妻が園部町(当時)役場に長生園理事長であり園部町長でもあった野中一二三氏を訪ね面談した際のやり取りの一部を紹介し、長生園の現・元職員に対し「あなたの裁判での証言が偽証であっても、すでに時効が成立しており罪に問われることはありません。本当のことを語って頂けませんか」と呼びかけています。

## ニュース「真相究明」特別号(5/22付)を作成しました

今年西岡廣子さんが園部警察署(当時)に不当逮捕されて23年になります。逮捕当時、警察で受けた取り調べの実態を「園部の町から」に生々しく書いていただいたものと、逮捕拘留された当時の心情を吐露された「再審法改正をめざす口丹波の会」結成総会での訴えを、ニュース「真相究明」特別号としてまとめました。

このニュース「特別号」とシリーズピラ第10弾に「手紙」を添えて、昨年6月に改選された長生園理事長、理事、評議員、監事の28名と裁判に関わった元職員3名に郵便で送りました。まっとうな反応を期待しています。



## 宣伝ポイントを京都府南丹広域振興局付近に変えました



1月の定期総会以後毎月行っている園部町内での宣伝は、府知事選・南丹市長選と重なった4月を除いて毎月実施、5月から南丹市役所前を京都府南丹広域振興局付近に変更しました。これは「長生園の監督官庁である京都府の責任を世論に訴える」(13回定期総会決定)ためです。ちょうど昼休みの時間帯であり直接の反応は見えませんでした。庁舎にきっと声は届いていると思います。

(写真奥の建物が南丹広域振興局です)

### ■【活動日誌】ニュース「真相究明」第41号(2/20付)発行以後の取組みを紹介します。

- ・確定判決勉強会の具体化を福山弁護士と相談(3/3)
- ・2022年度第2回事務局会議を開催。「シリーズビラ第10弾」の発行、会員拡大リーフの更新、ホームページの更新などを検討、会議終了後定例の宣伝を実施(3/11)
- ・第3回事務局会議を開催。シリーズビラ原稿を確定し発注、ホームページの更新と、ニュース「真相究明」特別号の発行を確認。宣伝は府知事選・南丹市長選の最終盤であることを考慮し中止(4/8)
- ・第4回事務局会議を開催。相談役の小林氏から提供を受けた最新の長生園情報(理事長・理事・評議員名簿など)を確認し働きかけについて検討。シリーズビラの活用を具体化し、会議終了後京都府南丹広域振興局付近を含む三カ所で定例の宣伝を実施(5/13)

**\*お願い 2022年度およびそれ以前の会費がまだの方へ** 未納年度を書いた請求書を付けて、振込用紙を同封しました。手数料節約のため、ゆうちょ口座の通帳または郵便局のATMから振り込みをお願いします。

### 園部の町から(二十五) 西岡 廣子

田植えの終わった田んぼの苗がたつぷりの水の中に綺麗に並んでいます。青田が広がり九月にはたわわに実ります。まばゆい新緑、いろんな花が咲き心が和む、やっぱ春はいいなあと思います。

園部署での取り調べの続きを書きます。

日が暮れてきたので帰らせてほしいと頼んだところ刑事は、「帰れると思ってついできたのか」と机の引き出しから逮捕状を取り出し、私の前に突き付けてこよう言いました。「そうか、これだけ言っているのに、全面否認の道を選ぶのか。三千万円の証拠はいっぱい持っているのや。一つや二つの追起訴ではいかんのか。次から次へと叩いてやるさかい覚悟しとけ。再逮捕して10年でもぶちこんでやる」と凄み脅しました。

七時過ぎに逮捕され手錠、腰縄をつけられたままでやっとトイレに行かせてもらいました。留置場へ入れられる前、真っ裸にされ身体検査をされました。人格を否定され、惨めな虫けら以下の扱いを受けました。警察権力によって無実の者が逮捕される、悔しさと情けない思いで一睡もできないまま朝を迎えました。

次の日から朝、昼、夕と一日三回、衣類、本などの差し入れが主人から届けられました。「家や子供たちの事は何も心配いらん。気をしっかり持って頑張れ」の主人の伝言と一緒に副署長が持つて来てくれました。接見禁止がついている孤獨ななか、厳しい取り調べで自分を見失いそうになる時、三回の差し入れが何よりの励みでした。「母親がショックを受けて寝込んでいます。何があっても葬式にも出られないぞ」と親の事を持ち出して自分を迫られました。眠れない。食事もほとんど喉を通りませんでした。

副施設長が1998年度の不明金403万円を自腹で穴埋めした事、日ごろから公金を好き勝手に使っていた事など、色々話しましたが聞く耳持たず調書にすらしてくれませんでした。「町長は元々警察沙汰にする気はなかったんや、お前がいろんな所へ文書を送ったさかいや『こうなったら政治生命かけてたかかう』と言っている。事を大きくしたのはお前や。ええかげんに吐かんかい」とパイプ椅子を蹴り上げました。今日はここまでとします。

これから暑い日がやってきます。お身体をご自愛ください。(二〇二二・七)